

# 図画工作・美術科

# 1 カリキュラム作成のためのコンセプト

## 教科の本質

## 現在の小・中学校における図画工作・美術科の課題

### 〈指導内容・方法・評価等の課題〉

### 〈実態からの課題〉

- 表現・鑑賞の体験を通し、喜びや感動を味わい、また、情操を養い、生涯を心豊かに送るための資質や能力（身体性・想像力・アイデンティティ）を育成する。
- 体全体でものや人や環境にかかわる表現鑑賞活動を通して、世界と豊かに対話し、新しい関係をつくりだす力を育成する。
- 世界の共通言語である形や色で、自分なりの美的な価値や意味をつくりだし、主体的に表現する力を育成する。
- 身の回りの自然や環境、多様な文化としての美術を心の目でみつめ、自らの見方・感じ方を深める。また、それらのよさに関心を持ち、文化を創造する主体としての子どもを育成する。

- 小学校では「造形遊び」の活動にみられるように、ものや場所に体全体がかかわっていくプロセスで一人一人が自由に発想を広げ、自分なりの表現を発見していくことが重視され、中学校では共通したテーマやイメージの作品づくりに向けて、一人一人の独創性・技能が重視されている。この小中の二つの視点の差異をスムーズに接続したい。
- 小学校1年生～中学校3年生の系統性を考慮した指導内容を確立していきたい。
- 学習指導要領の解釈の仕方によって、各学校での指導内容に差がある。
- 鑑賞活動の重要性には気付いているが、どのような内容が考えられるかが明確ではない。表現と鑑賞の一体化を含めプランを立てたい。

- 中学校では美術に興味があっても、素直に表現しない子どもの姿が見られる。
- 小学校では、図工を楽しみにし、のびのび表現している子どもは多いが、図工を通して、感じ・考え・表現する主体としての力が十分に育っていない子どもの姿がみられる。
- 鑑賞については子どもの実態にあわせて、鑑賞の対象や鑑賞の方法に配慮したり、表現との一体化をはかたりする必要がある。
- 図工・美術で育った力が現実の生活、生涯の生活に生かされているかを問い直す視点をもつことが大切である。上手に描いたり、つくったり、美術史を憶えたりすることに向けられた教科にとどまってはいけない。



### 課題を克服するための基本的な考え方

- ◇1～6年生まで行われている「造形遊び」の目指す表現の楽しさを、7～9年生にも取り入れ、子ども一人一人の感性や表現を深めていく。
- ◇「みて・感じて・かく・つくる」活動のあり方を問い直し、9年間見通した系統的な指導内容を明確にする。
- ◇「鑑賞」活動では、子どもの見方や感じ方を深められるよう、鑑賞の対象を幅広くとらえたり、鑑賞の方法に配慮するなどして9年間の指導内容を明確にする。
- ◇9年間の系統的なカリキュラム作成のため、「1 表現、創造（つくりだす力）」、「2 考える（想像・発想・構想する力）」、「3 鑑賞（見る・感じる力）」の3つの軸を設定し、指導内容を具体化していく。
- ◇カリキュラム作成にあたっては、特に5～7年生のスムーズな接続を実現できるよう考慮する。1～4年生、8～9年生は、現行の内容を生かしつつ、上記の改善点を組み込んでいく。



### 小中一貫教育のコンセプトから考える図画工作・美術科のねらいと育てたい力

#### 〔1年生～4年生〕

- ・ものに出会い、体全体でつくりだす喜びを味わう活動を通し、豊かな身体感覚や想像力を育む。
- ・身の回りのものや環境、自他の作品のよさやおもしろさに関心を持ち、深く味わうことができるようにする。

#### 〔5年生～7年生〕

- ・主体的に「みて・感じて・考えて・かく・つくる」活動ができるようにし、活動のプロセスで、世界（もの・人・こと）との新たな関係を築いたり、新たな自分をつくりだしていけるようにする。
- ・鑑賞の対象の幅を広げたり、本物にふれる活動を取り入れ、見方や感じ方を深めていけるようにする。

#### 〔8年生～9年生〕

- ・多様な表現メディア（映像メディアを含む）の広がりから、自分のイメージや考えにあったものを選んだり組み合わせたりして、自分なりの美的な価値や意味をつくりだせるようにする。
- ・世界の多様な美術にふれ、学習することで自然・自国文化・異文化を深く味わうことができるようにする。日本の美術と世界の美術との関連や差異にも目を向けるようにする。



〈発達のみとまりによる主な指導内容・指導形態〉

1年生・2年生		3年生・4年生		5年生～7年生			8年生・9年生		
I 表現、創造の力									
<p>○体全体でものに出会い、かかわる喜びを味わう。</p> <p>○身近な材料を用いて、楽しんで表現する。</p> <p>○造形遊びを通して、自分のイメージをつくりだす。</p>		<p>○見たこと、感じたこと、想像したことを自由に絵や工作で表現する。</p> <p>○身近な材料を組み合わせて、計画的に楽しんで表現する。</p> <p>○造形遊びを通して用途や表現の可能性に挑む。</p>		<p>○造形表現の基礎基本の力を身に付けるとともに、共同製作の喜びを味わう。</p> <p>○新たな材料を取り上げて、楽しんで表現活動の幅を広げる。</p> <p>○造形遊びを通して、表現の広がりや深まりを支える技術も習得する。</p>			<p>○より効果的な表現方法を生かして、創意工夫しながら楽しんで表現する。</p> <p>○コンピューター等多様な表現メディアも活用し表現する。</p> <p>○造形遊びを通して、さらに新たな独創的表現方法を発見する。</p>		
II 考える力									
<p>○形や色などから造形的な思いをふくらませる。</p> <p>○表したいことにあわせて、身近な材料や用具を集める。</p>		<p>○自分の経験や思いをもとに、想像を広げ工夫してつくる。</p> <p>○材料や用具の組み合わせに関心をもたせ、美しさや用途を考えて、計画的に取り組む。</p>		<p>○ものを見て感じたことを想像・構想し、主体的に取り組む。</p> <p>○材料・用具・場所等の組み合わせを考え、視覚的効果や意外性を工夫して追究していく。</p>			<p>○自ら感じ考えたことを、より効果的な表現方法を選んだり、新たに生み出すなどして、創作する力を伸ばす。</p>		
III 鑑賞の力									
<p>○自他の作品の形や色に関心をもち、友達作品の表したかった気持ちを聞いたたりして楽しくみる。</p> <p>○身近な自然物や材料に触れ、その感触や不思議さに関心をもち、楽しく体験してみる。</p>		<p>○自他の作品のよさや面白さなどについて、色々な表し方や材料による感じの違いなどかわり関心をもって見る。</p> <p>○身近な自然物や、それらを使用した工芸品などのよさや面白さについて、感じたことや思ったことを話し合う。</p>		<p>○自他の作品の表現などに表された心情や意図、工夫を感じ取り、鑑賞による感動体験を味わう。</p> <p>○古代から現代におよぶ日本や諸外国の美術作品について、社会科と連携しながら系統的に鑑賞する。また、暮らしの中のデザイン、工芸品などの中の、豊かな発想と工夫などについて関心をもつ。</p>			<p>○自他の作品の表現に対する見方を更に深め、作品に対する自分の価値意識をもって鑑賞し合い、満足感を共有する。</p> <p>○日本及び諸外国の変遷や相互の影響を調べ、表現の相違や共通性に気付き、美術文化の新たな継承への関心を深める。</p> <p>美術作品、デザイン、工芸作品の中に取り入れられた自然の素材、美、機能性などの調和に関心をもち、自己の美意識や美的選択力を高める。</p>		
1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	7年生	8年生	9年生	学年 1単位 45分
68	70	60	60	50	50	45	35	35	現学習指導要領
68	70	60	60	50	50	50	40	40	小中一貫教育